

# ● 学会発表の内容

## 当院での絨毛検査の現況

医療法人社団 徐クリニックARTセンター  
中塚愛 清須知栄子 伊藤真理 峰千尋 徐東舜

### ■ 【はじめに】

院での不妊治療後の初期流産に関して、原因精査として絨毛の染色体検査を行ってきた。2002年から2015年の間、当院で実施した絨毛検査をとりまとめたので報告する。

### ■ 【対象】

2002年1月～2015年9月30日間の流産件数473件中、流産原因精査での絨毛検査を説明し同意した183件(平均年齢は $36.2 \pm 4.0$ 歳)を対象とした。絨毛検査実施率は38.7%(183/473)、流産処置を実施した週数は9週2日 $\pm$ 8日、既往流産回数0回(初回流産)、1回、2回以上は、それぞれ75、65、43件であった(平均既往流産回数 $1.0 \pm 1.4$ 回)。

### ■ 【方法】

経腹エコーガイド下のもと胎盤鉗子を用いて絨毛組織を採取し、G-band解析(ギムザ染色)を行った。

### ■ 【結果】

全体の染色体正常率は29.5%(54/183)、染色体異常率は70.5%(129/183)であった。染色体異常の種類としては、Trisomy71.3%(92/129)、Tetrasomy以上9.3%(12/129)、Monosomy8.5%(11/129)、Polyploid 5.4%(7/129)、Mosaic3.1%(4/129)、転座2.4%(3/129)、であった。Trisomyのうち常染色体の16番19.6%(18/92)と22番28.3%(26/92)の頻度が高い傾向にあった。

年齢別の染色体正常率は、29歳以下66.7%(8/12)、30-34歳34.7%(17/49)、35-39歳27.1%(23/85)、40歳以上16.2%(6/37)となり、年齢とともに低下した。また40歳未満では、初回流産28.1%(18/64)流産既往あり36.6%(30/82)となり既往流産歴がある患者の方が高い傾向にあった。また、40歳以上では初回流産18.2%(2/11)流産既往あり15.4%(4/26)となり、既往流産歴がある患者の方が低い傾向にあった。

### ■ 【結論】

- ①染色体異常の中ではTrisomyの異常が多く、特に16番と22番のTrisomyの頻度が高かった。
- ②年齢と共に染色体正常率は低下した。
- ③30歳未満では染色体正常率が高い。
- ④40歳以上では流産既往があっても正常染色体率は低い傾向となった。